

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 パラドックス・ブラック	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.480	△RG 0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：パラドックス・ブラック

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

番

比較対照ボール：パラドックス・トリロジー

フレアーの幅 インチ

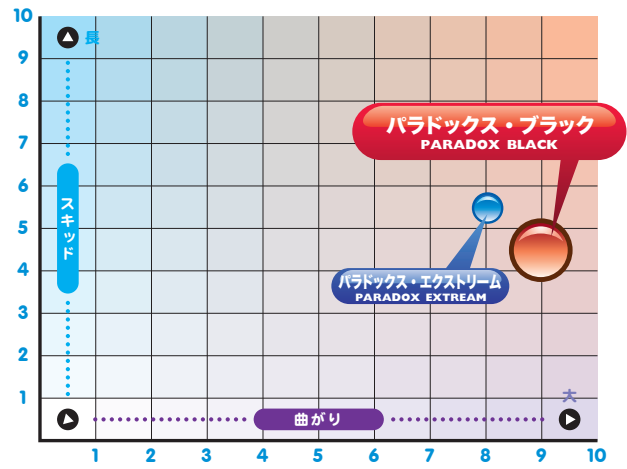
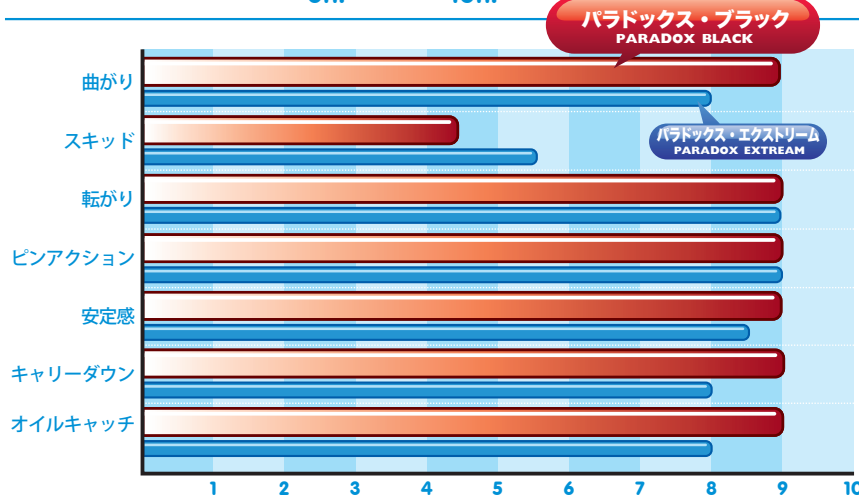
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

PARADOXは2015年8月PARADOXから発売を開始し、2016年9月のTRILOGYで完結しています。しかし日本では秘密裏にI-Core2.0のCoreTechnologyを使った開発を進められており、今年の5月にPARADOX EXTREMEを発売。心地良いスキッド感の中にしっかりとキャッチとI-CoreならではのしっかりとネジれるBackend Motionがユーザーの心をとらえ、多くの方にPARADOX EXTREMEを使用して頂きました。米国で完結しているPARADOXをなぜ日本で開発を進めていたのか？それはI-Coreのもつポテンシャルは無量大であり、米国で発売されたPARADOXシリーズよりオイルに強くBackendも動くボールも可能であれば、もっとスキッドさせBackendの動きに集約することも可能だと考えていたからです。PARADOX EXTREMEが多くのユーザーに受け入れられたのは、ある意味”PARADOXらしくない動き”で明確なメリハリ感が出ていたからでしょう。日本のユーザーが求める性能は開発に日本のスタッフの意見が多くとり入れられなければなりません。今回我々が求めた性能はPARADOXシリーズ中、PARADOX EXTREMEの動きを確保しながらオイルに対して強化させた、日本のボウラーが”曲がる”と感じる動きをABSボール開発チームが特別オーダーしたのがこのPARADOX BLACKです。一番の特筆すべき点は”キャッチと奥の動きの融合”です。ただキャッチを強く求めれば曲がり始めるまえに失速することになり、Backendでの動きをだそうとするとスキッドさせる必要があり、手前のオイル量に敏感になります。私達が求めたオイルに負けないキャッチとBackendの動きを兼ね備えたCoverstockの調合。Coverstockの調整から配色までを考慮しながらしっかりとキャッチさせてBackendの動きも明確に仕上げました。このPerformanceであれば、PARADOX EXTREMEよりも内側の厚いオイルを使い、さらに外に向けて戻すラインも取れるでしょう。

特記事項

PARADOXシリーズで最も多く板目をとれるボールに仕上がっています。オイルの上をしっかりと外に向け、入射角が取れる角度まで戻すラインが可能と感じるでしょう。